

## 加賀市加賀橋立伝統的建造物群保存地区におけるサイン計画の立案

金沢美術工芸大学 鏑 隆弘 教授

松尾 郁実・吉田 鈴 ・高村 美緒 ・三宅亜里彩・長谷川 晶子

地金 育美・神林 優志

金沢工業大学 谷 明彦 教授

岩田 治・

石川工業高等専門学校 道地 慶子 教授

中根諒・青崎杏奈・荒井美咲・大勝友貴・中倉萌々子・東篤志・

石塚奨冴・佐々木玲・坪田咲

### 1. 調査研究成果要約（200字）

北前船船主の伝統的建物が歴史的景観を見せる地区において、回遊性を高め来訪者にとっての快適性、魅力を高めるため、地区内におけるサイン計画を策定した。これまで継続に行ってきた橋立地区の整備地点を繋ぎ、回遊性をもたせる重要な役割をもつサインを、三つの高等教育機関の研究室がそれぞれの専門性を生かし意見を交えながら、より魅力的で地域に相応しいものになるよう検討した。

### 2. 調査研究の目的

北前船船主の伝統的建物が歴史的景観を見せる地区において、回遊性を充実させ、快適性を高めるため来訪者にとっての快適性、魅力を高める案内及び誘導サイン計画を策定し、整備地や対象建造物に来訪者を導くことを目指して進めている。

### 3. 調査研究の内容

景観資源及び、観光資源を把握し橋立の魅力を知った上で来訪者へその魅力を伝えると共にどこをどのように見てもらうのかを三校の学生、教授と意見を交え、現状の問題点と計画後に期待できる改善点を話し合った。今年度はサイン計画実行に向けて現地調査（道路の幅、石畳の大きさ確認・風景色のカラーハンティング等）を重ね、サインモデルの設置検証、フィードバックを繰り返し行った。サインデザインは美大を中心に、重伝建のまち並みを阻害しない、わかりやすいものを検討し、具体的な仕様や文字の大きさの調整を続け、最終的に近隣の住民、加賀市役所担当職員を交えたサイン計画説明会を開催した。今後の目標は1年以内に実際にサインを設置すること・地域外の方々に橋立をより知ってもらうための宣伝広告の媒体を考案すること・以前から続けている現地の整備により来訪者の回遊を誘発することである。これらの活動により全体的な来訪者数増加を目指す。

【活動内容】

- ・4/28 3校会議（今年度活動確認）
- ・5/23 学内橋立プロジェクト説明会
- ・5/26 小会議（今年度活動確認）
- ・5/31 小会議（サインデザイン会議）
- ・6/8 小会議（現地調査に向けての準備）
- ・6/18 現地調査 カラーハンティング・町歩き
- ・7/4 小会議（18日フィードバック）
- ・7/22 三研究室ミーティング  
（サイン計画進捗状況確認）
- ・8/11 小会議（22日フィードバック）
- ・8/18 加賀橋立における現地整備
- ・9/17 現地調査・実寸モデル設置 蔵六園見学
- ・10/8 三研究室 加賀橋立実寸モデル設置 住民説明会
- ・10/20 三研究室ミーティング（住民説明会報告）
- ・11/16 小会議（サインデザイン・今後の活動確認）
- ・12/21 小会議（1年間のおまとめ・来年度の活動予定確認）
- ・1/10 小会議（サイン、案内地図表記ブラッシュアップ）
- ・1/23 小会議
- ・1/31 三研究室ミーティング  
（サイン計画進捗状況確認、意見交換）



学内ミーティング



現地調査



三研究室ミーティング

4. 調査研究の成果

サイン計画実現に向け保存組合の方とのフィールドワーク、実験や調査を重ねた結果、橋立の魅力を深く知れると共に地域のデザインを行うための気づきや学びを得ることができた。三研究室の専門的な意見交換のフィードバックにより安全性・耐久性を考慮した構造や景観との調和を取り入れたデザインなど、多様な視点から検討することができより現実的に研究を進めることができた。



住民説明会



フロアシールを使った検証



交差点サイン



通りサイン



記名サイン



展望台デザイン案スケッチ



案内板地図表記デザイン (実寸: タテ 1 m)

地面サイン、案内版地図表記デザイン共に全体に橋立のカラーとして設定した赤瓦の色と模様を織り交ぜている。サインとして機能することに加え重要伝統的建造物群の景観に調和するデザインを考案した。交差点、通り、記名の三種類のサインは見通しのきく空間に馴染むよう足元に設置する。案内版地図表記デザインはかなり大きい掲示物となるので色が風景の邪魔をしないよう淡い色合いを使いシンプルで見やすい表現を目指している。

## 5. 来年度の調査研究計画

今年度取り組んだサイン・地図表記デザイン案をもとにフォントの種類、文字の大きさ、色味等の調整を行い三研究室ミーティング、住民説明会での意見交換を再度開催する。その後設置するものの素材や使用を加賀市役所と決定する。調査、試作実験と制作を繰り返し行った今年度の成果を活かし決定案の実施を目指す。さらに地区内の眺望点に景色を望める展望台を提案し、こちらも来年度設置に向けて活動を進めていく。同時に眺望点周辺については、眺望を阻害している樹木の伐採を検討する。樹木は崖地に生育しており、伐採については危険作業が伴うため、地区保存会から専門業者に委託してもらい整備する予定である。

## 6. 調査研究に対する地域からの評価

保存組合を含めた話し合いや、サイン計画住民説明会を開催した際の意見やアンケート回答から地域の方の意見を数回にわたって聞くことができた。来訪客誘導のための活動のみならず地域外での橋立のPRや地域内のみどころ増加に向けての活動など幅広い分野で携わって行って欲しいとの声もあった。今後、サイン計画によって橋立地区の回遊性や観光の際の分かりやすさが向上することで、将来的に来訪者の増加や地域の活性化に繋がり、地区住民活動自立の一助となると考える。